

## 父・今日出海の仕事

ライブラリー・サポート・フォーラム

父今日出海が永眠して今年で 25 年になる。実は 10 年以上も前から私に残されたダンボール箱に父の書いた本や雑誌があって、司書である私は少しずつカード化していった。カードを持って駒場の日本近代文学館へ行って、文学館のカードと照合してみると私のカードは父の著作の一部に過ぎないことが分った。雑誌にいたっては実際に書いた記事との差は見当もつかなかった。これらの著作や記事をリスト化して目録を作ってもこれでは意味がない。

その後、国会図書館や横浜の文学館や大宅壮一文庫などへ行ったりして、ポツポツ父の書いた著作を集め始めた。ウェブ検索も出来るようになってそれも利用した。しかしデータベースも全てが網羅されているわけではなかった。

折角集めたので 3 年位前から本気で著作目録作成に取り組んだ。父は若いころからジードやユーゴーの著作を翻訳していたので翻訳からまとめ始め 70 点ほどリストした。次に図書だが、長編は少なく短編や中篇が多いので他の作家と組んで出される短篇集の一部や、他の著作の序文や解説なども含めて約 238 点になった。雑誌の記事はウェブ検索だけではカバーされず、実際には 100 点ほどになるので 2 次資料の検索に時間とエネルギーを費やした。さらに現物と照合するのに 1940 年代 50 年代の雑誌は国会図書館でも所蔵していないものも多く、あっちこっちの図書館や文学館を歩き回っての作業になった。

新聞については朝日新聞が冊子体の索引もあり、データベースもできているので最近では検索が楽になった。読売新聞もデータベース検索ができる。データベースがなくても縮刷版がある新聞は助かるが、さらには総合索引があることが望ましい。社会時評のコラムも連続して書いているので縮刷版が無いとマイクロ資料で探さなければならず目の悪い私には苦痛であった。

父は大学生の頃から演劇青年で映画を 1 本撮っているし、芝居は亡くなる半年前まで演出をしているので、これも外せない。連続テレビドラマは父の「幸福への起伏」が最初だそうだ。ラジオは 1935 年に最初の記録があり、その後講演や座談会なども多くとても探しきれなかった。

父自身について自分で書いているもの書かれているものも多く、中には漫画入りなどもあっておかしかった。これらの著作や記事は最終的には 3000 点を超えた。

索引は出来るだけ網羅的である方が利用者の役に立つと私は信じているのだが、それには索引を裏付けるオリジナル資料（一次資料）の充実が不可欠だ。この仕事をして、わが国の出版にも図書館にもまだ問題があることが分かった。

父には全集がないので、この目録が不完全ではあるが父の仕事の総まとめになればよいと思っている。

今 まど子(2009・10・22)

# 父の仕事・今日出海の 書誌作り

今 まど子

父日出海が亡くなって、ダンボール箱に入った著作が山積みになっていて、図書館司書である私はカード化することを思いついた。単行書から始めたが、最初の一冊は『大いなる蕃徴』というフランスを舞台にした小説で、章毎に挿絵画家が異なる美しい本であった。スマートな益田義信さんは挿絵ばかりでなく装丁もして下さっている。太い緑の眼鏡をかけた宮田重雄さん、宮田さんはお医者さんだったそうだがいつも周りに人がいて笑い声が聞こえていた。フランス帰りの画家大森啓助さんは何故かタマチャンと呼ばれていて、金髪の奥さんがいた。渋谷は金王町に住んでいたところ、近所だったからよく遊びに行ったものだ。一冊毎にさまざまな思い出が蘇ってくるので、ちっとも抄らない。やっとできたカードを持って日本近代文学館に持って著者名カードの引き出しで検索してみた。私のカードに無い本が何冊もあった。国立国会図書館でも私の知らない本に出会って、我が家のコレクションは日出海の著作が全部そろっていないことを知った。

翻訳書はジードの『田園交響楽』や『地の糧』は知っていたがモリス・ブデルの翻訳書が出てきて、カードが増えた。小説の中には映画化されているものがある

るので『映画年鑑』で調べていたが、ある時インターネットで検索したら十三本も出てきて、せっせと図書館に足を運んだ頃のことを思うと損したような気になった。テレビが始めたころテレビ会社にホームドラマのアイディアを出したのだそうだから、テレビ化されたものもある筈だが、ビデオの無い時代のことだから探すのが簡単ではない。

その上、芝居がある。日出海は演劇青年だったから若いころから演出を手がけ、晩年になっても演出したり舞台稽古に立ち会ったりして明け方近くに帰ってきて疲れたと言わなかった。「芝居がよっぽど好きなね」と母が感心したように言っていたのを思いだす。そのくらいだから国立劇場の会長で亡くなったのは本望だったのであるまいか。

雑誌に書いた小説や評論、エッセイなどは千二・三百点あるが、大衆文学誌や週刊誌に書いたものが多く、国会図書館の雑誌記事索引に引かかっているものの方が少ない。小田切進先生編纂の『現代日本文芸総覧』や大宅壮一文庫の目録に助けられた。戦前戦中の記事は昭和二十年五月二十五日の東京大空襲で渋谷にあった家と共に灰になってしまったものもあって、特にその時期の記事は揃わない。出版社がもう存しないものもあった。

また膨大な量の新聞記事を書いている。長期にわたって書き続けていたコラムもあって、どの位続いたか分からないが、ところどころクリッピングが残っているのを手

がかりに探した。縮刷版や索引がある新聞ならよいが、どちらも無い新聞となると、国会図書館でマイクロフィルムを借り出して大体の見当をつけて探さなければならぬ。マイクロフィルムは一卷に一ヵ月分の新聞が入っているのだが、一回に三本までしか書庫から出してもらえない。だから一日に六ヵ月分チェックするのが関の山だ。それくらいが体力的にも視力的にも限界だからだ。図書館に通って三年分も調べたらもうくたびれてしまい、今は休止中だ。

その上、自伝と他伝がある。日出海は戦時中二度も陸軍に徴用されフィリピンに送られている。二度目があの山中放浪なのだ。この著作は始め『雄鶏通信』に連載されていたことを、この調査で知った。親のことなのに案外知らないことがあるのに気がついた。

(中央大学名誉教授・お茶の水図書館理事長)

## 声のライブラリー (第48回)

自作朗読と座談会

篠 弘 『緑の斜面』より

三浦雅士 『出生の秘密』より

江國香織 『そこなり』(号位する)

準備はできていた)より

日時 2月10日(土)午後2時~4時

会場 日本近代文学館ホール

申込方法 住所・氏名・電話番号を

明記の上、参加料三千円と返信用

80円切手を当館へ。(定員百名)

# 立原道造 全集



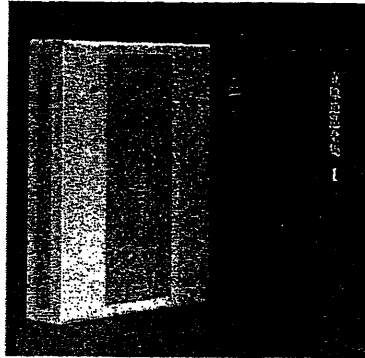
全5巻

2006年11月8日刊行開始

第一回・第一巻 7980円(税込)

\*第2回来春刊行予定 定価各巻不同

三十五年ぶりに原資料に当たり直した、新編集による決定版。初めて建築図面などの写真図版を豊富に収録し、建築家・造形家・意匠家としての立原にも光を当てる。



A5変形判・上製・貼函入・平均680頁  
口絵 カラー4頁(第四巻カラー64頁)

\*詳細内容見本を送ります 小社サービスセンターまでお申し込み下さい。

## 立原道造 宇佐美斉

\*全集発売記念復刊・新装版 精緻な詩人論 2520円(税込)

○筑摩書房サービスセンター

さいたま市北区編み町2-6-04

〒331-8507 ☎048(655)0053

筑摩書房 東京台東区前2-5-3

http://www.chikumashobo.co.jp/

## 二次資料

- ・国立国会図書館 NDL-OPAC (書誌)
- ・国立国会図書館 NDL-OPAC (雑誌記事)
- ・国立情報学研究所 CI-NII
- ・『大宅壮一文庫雑誌記事索引総目録 人名編 3.』 (財)大宅壮一文庫  
1985(昭和60)年6月 1128頁
- ・『現代日本文芸総覧』増補改訂 小田切進編 明治文献資料刊行会 発売大  
空社 1994(平成6)年 4冊
- ・『文芸雑誌内容細目総覧 戦後リトルマガジン編』勝又浩監修 日外アソシ  
エーツ 2006(平成18)年11月 785頁
- ・『明治・大正・昭和前期 雑誌記事索引集成』 皓星社 1992年～1998年  
人文科学編 7巻、8巻、17巻、18巻、19巻、20巻、28巻、31巻、44  
巻、46巻47巻  
社会科学編 29巻、43巻、57巻、60巻、63巻、64巻、68巻
- ・『書誌書目シリーズ』 ゆまに書房 2007(平成19)年3月  
68. 戦前期四大婦人雑誌目次集成  
78. 戦前期週刊朝日総目次  
82. 戦前期サンデー毎日相目次ほか
- ・『戦後雑誌目次総覧—政治・経済・社会—』東京大学社会科学研究所戦後改革  
研究会編 東京大学出版会 1976(昭和51)～1977(昭和52) 2冊
- ・『日本現代演劇史』大笹吉雄著 白水社 1990(平成2)～2001(平成13) 6冊
- ・『文芸春秋七十年史 資料編』 文芸春秋 1994(平成6) 334,176頁
- ・『文芸年鑑』文芸家協会編 新潮社 年刊
- ・『演劇年鑑』日本演劇協会編 日本演劇協会 年刊
- ・朝日新聞データベース
- ・読売新聞データベース
- ・他に個々の新聞雑誌の索引等多数参照させていただきました。

## 利用した図書館

- ・国立国会図書館東京本館および憲政資料室  
100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1 ☎03-3581-2331(代)
- ・東京都立中央図書館  
106-8757 東京都港区南麻布5-7-13 ☎03-3442-8451
- ・渋谷区立中央図書館  
150-0001 渋谷区神宮前1-5-34 ☎03-3403-2591

- ・慶応義塾大学三田メディアセンター  
108-8346 東京都港区三田 2-19-30 ☎03-5427-1654
- ・中央大学図書館  
192-0393 八王子市東中野 742-1 ☎042-674-2512
- ・早稲田大学 演劇図書館  
169-8050 東京都新宿区戸塚町 1-104 ☎03-5286-1829
- ・(財)大宅壮一文庫  
156-0056 東京都世田谷区八幡山 3-10-20 ☎03-3303-2000
- ・(財)松竹大谷図書館  
104-0045 東京都中央区築地 1-13-1 ADK松竹スクエア 3階  
☎03-5550-1694
- ・秩父宮記念スポーツ図書館  
160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町 10-2 ☎03-3403-1159
- ・(財)日本近代文学館  
153-0041 東京都目黒区駒場 4-3-55 ☎03-3468-4181
- ・神奈川県立図書館  
220-8585 横浜市西区紅葉ヶ丘 9-2 ☎045-263-5900(代)
- ・神奈川県立神奈川近代文学館  
231-0862 横浜市中区山手町 110 ☎045-622-6666
- ・横浜市立中央図書館  
220-0032 横浜市西区老松町 1 ☎045-262-0050
- ・鎌倉文学館  
248-0016 鎌倉市長谷 1-5-3 ☎0467-23-3911

## 目次

### 著作目録

- A 図書
- B 雑誌記事
- C 新聞記事
- D 翻訳
- E その他 (演劇関係、映画関係、放送関係)
- F 参考文献 (今日出海自身について)

### 今日出海年譜

索引 (人名索引、作品名索引)

## 1947

- A0018 「刊行のことば」 7~8頁／今日出海著  
 『児童劇集』（坪内逍遙作）かに書房 1947(昭和22)年8月 139頁（脚本シリーズ 4. /青少年演劇研究会編）

## 1948

- A0019 『大いなる薔薇』（今日出海著）新太陽社 1948(昭和23)年7月 238頁 ¥115  
 内容：勝負、旅の誘ひ、羅馬の春、フィレンツェの春、受胎告知、過客(続く)、過客  
 装幀・挿絵：佐藤敬  
 注：一部に改訂あり

## 1949

- A0020 「脂粉の舞」 323~386頁／今日出海著  
 『現代小説代表選集 5.』（日本文芸家協会編）光文社 1949(昭和24)年 449頁  
 初出：『文芸読物』1949年7月
- A0021 「解説」 161~164頁／今日出海著  
 『母代』（舟橋聖一著）光文社 1949(昭和24)年1月 164頁 ¥60（日本文学選 47）
- A0022 『山中放浪—私は比島の浮浪人だった』（今日出海著）日比谷出版社 1949(昭和24)年11月 290頁 ¥170  
 内容：マニラ退却、山中挿話、山中放浪、台湾脱出、あとがき  
 注：口絵に和服を着た著者の写真(1949年10月)、比島要図あり  
 初出：「山中放浪」、「マニラ退却」は『雄鶏通信』に、「台湾脱出」は「脱出一敗走千里台湾脱出」と題して『改造』に掲載された
- A0023 「解説」 188~193頁／今日出海著  
 『羅生門 他十二篇』（芥川龍之介著）新潮社 1949(昭和24)年12月 193頁 ¥65（新潮文庫）

## 1950

- A0024 「解説」 271~273頁／今日出海著

## 1983

- B1385 「天皇の帽子」  
 『オール読物』 38巻3号 356~367頁 1983(昭和58)年3月
- B1386 「〈追悼 小林秀雄〉 わき目もふらぬ人生」/今日出海・談  
 『中央公論』 98巻4特大号 60~63頁 1983(昭和58)年4月 ¥650 (故小林氏の写真)
- B1387 「〈小林秀雄追悼記念号〉 わが友の生涯」  
 『新潮 臨時増刊』 80巻5号 109~115頁 1983(昭和58)年4月5日 ¥820  
 補記：小林秀雄氏は1983年3月1日に逝去
- B1388 「〈巨人・小林秀雄の伝説〉 こよなく桜を愛した君 〈弔辞〉」  
 『文芸春秋』 61巻5特別号 183~185頁 1983(昭和58)年5月 ¥550 (鳥海青児氏による小林氏のスケッチあり)  
 注：3月8日青山斎場における今氏の弔辞のテープより作成
- B1389 「〈追悼 素顔の里見弴〉 真のモラリスト弴さん」/今日出海・談  
 『別冊かまくら春秋』 6号 62~63頁 1983(昭和58)年6月  
 補記：里見弴氏は1983年1月11日に逝去
- B1390 「東西談義 (講演)」  
 『福山大学教養講座』 3号 30~33頁 1983(昭和58)年6月  
 (昭和54年6月26日に学外講師として行なった講演)
- B1391 「〈久保田万太郎没後二十年記念講演〉 久保田さんのライスカレー」  
 『三田評論』 839号 56~65頁 1983(昭和58)年8/9月 ¥450

## 1984

- B1392 「〈今日のこと昨日のこと〉 時間を殺す」  
 『婦人画報』 966号 256~257頁 1984(昭和59)年1月
- B1393 「〈今日のこと昨日のこと〉 変わらぬ風景」  
 『婦人画報』 967号 168~169頁 1984(昭和59)年2月
- B1394 「〈今日のこと昨日のこと〉 人間性の回復」  
 『婦人画報』 968号 156~157頁 1984(昭和59)年3月
- B1395 「〈今日のこと昨日のこと〉 吉川幸次郎君のことなど」  
 『婦人画報』 969号 216~217頁 1984(昭和59)年4月
- B1396 「〈没後一年小林秀雄特集〉 小林とともに生きて」/今日出海・談  
 『新潮』 81巻4号 226~235頁 1984(昭和59)年4月 ¥680
- B1397 「〈巻頭随筆〉 失業者」  
 『新潮45+』 3巻4号 33~34頁 1984(昭和59)年4月 ¥450

## C. 新聞記事

1952

- C0099 「ことしの化け物」  
『読売新聞』付録 1952(昭和27)年1月1日(火) 10面
- C0100 「映画界の壁を壊す」  
『朝日新聞』 1952(昭和27)年1月31日(木) 4面  
※〔羅生門の受賞〕
- C0101 「雪間草」  
『日本経済新聞』 1952(昭和27)年2月9日(土) 7面  
※挿絵・三岸節子  
※小説連載6月19日まで(132回)
- C0102 「〈コントコンクール〉自由主義者」  
『読売新聞』 1952(昭和27)年6月2日(月) 4面  
※え・高岡徳太郎
- C0103 「〈林夫人はなぜ自殺したか〉」のうち、「長男の留学心配」(今日出海・談)  
『読売新聞』 1952(昭和27)年6月9日(月) 3面  
※岐阜より
- C0104 「映画批評家への批評—読者を相手に語れ」  
『読売新聞』 1952(昭和27)年9月8日(月) 2面
- C0105 「〈一日一題〉公明より賢明選挙へ」  
『読売新聞』 1952(昭和27)年9月13日(土) 夕刊 1面
- C0106 「怒れ三平」  
『毎日新聞』 1952(昭和27)年10月10日(金) 夕刊 4面  
※福田豊四郎・画  
※小説連載1953年2月2日まで(102回)
- C0107 「〈文化〉漫画について」  
『読売新聞』 1952(昭和27)年10月21日(火) 夕刊 4面

1953

- C0108 「〈文化〉生きているパリ」  
『読売新聞』 1953(昭和28)年1月21日(水) 6面  
※カット・シャイヨー宮殿
- C0109 「ゴッホ終焉の地を訪う」(パリにて)  
『読売新聞』 1953(昭和28)年3月6日(金) 6面
- C0110 「ギリシア紀行」(アテネにて)  
『読売新聞』 1953(昭和28)年3月9日(月) 6面  
※カット・パルテノン神殿

## その他

演劇関係  
— 戯曲・台本・演出 —

- E0001 1927(昭和2)年 5月29日(日)・30日(月)18時 心座 第5回公演 帝国ホテル演芸場  
「時は夢なり」6場  
作：アンリ・ルネ・ルノルマン、訳：岸田国土、演出：第二部(今・堤・古沢・舟橋)、装置：小松栄  
出演者：河原崎長十郎、市川団次郎、花柳はるみほか  
※補記：今日出海が舟橋聖一氏の誘いで心座の演出部に参加したのは1926(大正15)年9月の第4回公演の直後だったという。この舞台が最初で4人の共同演出であった。
- E0002 1927(昭和2)年 心座 第6回公演 新橋演舞場  
「飢渴」  
作：ユージン・オニール、演出：今日出海、装置：伊藤熹朔  
出演者：藤間春枝(後の吾妻徳穂)、河原崎長十郎、市川団次郎ほか
- E0003 1927(昭和2)年 11月27日・28日 築地小劇場  
「声」1幕  
作：ジャン・コクトー、訳：東郷青児、演出：舟橋聖一・今日出海
- E0004 1930(昭和5)年 蝙蝠座 第1回公演  
「ルル子」7幕  
共作：池谷信三郎・中村正常・舟橋聖一・西村晋一・坪田勝、演出：舟橋聖一・今日出海
- E0005 1933(昭和8)年 10月 築地小劇場(同劇場改築竣工記念)  
「ハムレット」5幕20場  
作：ウィリアム・シェークスピア、訳：坪内逍遙、演出：久米正雄・久保栄・今日出海、作曲：山田耕作、装置：伊藤熹朔  
出演者：薄田研二、高津慶子、丸山定雄ほか  
※補記：シェークスピア全集(坪内逍遙訳)の出版完結(中央公論社)を記念して
- E0006 1934(昭和9)年 1月 日本新劇祭 築地小劇場  
「地藏経由来」1幕  
演出：久米正雄・今日出海  
出演者：市川楽三郎、坂東調右衛門、室町歌江、小峰千代子ほか
- E0007 1937(昭和12)年 9月 新橋演舞場か?  
「乃木将軍」3幕  
作：真山青果、演出：今日出海  
出演者：辰巳柳太郎ほか
- E0008 1939(昭和14)年 1月末の2日間 未明座第5回公演 日本倶楽部